

あるし、ないし、

寒くなつて参りました。暖房を使い始めているご家庭も多いと思います。わが家では昨年から薪ストーブを使っています。夏の暑い時期に少しずつ準備した薪を焚いています。ストーブの前で炎を見ながら過ごす時間は心地よいひとときです。

先日、東京のふるさと回帰支援センターで、長野県宮田村と合同で移住セミナーを開催いたしました。宮田村とは災害時相互応援協定を締結して以来、様々な交流があります。宮田村は中央アルプスの駒ヶ岳の麓にある人口約八千八百人と人口規模も穴水町と似ています。今回は「山の宮田村」と「海の穴水町」の対比をコンセプトにお互いの紹介を行います。した。両町村の概要、担当者や移住経験者からの情報提供があり、両首長からのPRの間も作って頂きました。私からは「あるし、ないし」をキーワードに話をしました。都会にあるもの、地方にはないもの。地方にあるけど、都会にはないもの。美味しい食べ物や美しい景色はもちろん、働き方や人間関係、地域コミュニティの違いなど、都会と地方の便利・不便を対比しながら、「あなたにとって本当に必要なことは何ですか？」と一緒に考えてみませんかと問いかける内容です。人は年齢や家族、経験などの変化で価値観や求めるものも変わってきます。これから生きていくために自分自身に本当に必要なものは何か考えてみませんか、私自身の十数年間東京で暮らした経験を交えながら話しました。

限られた時間でしたが、真剣に話を聞いている姿に、私たちは、移住を検討されている人、穴水町に来てもらいたい人に必要な情報をまだまだ届けられていないのではないかと感じました。これからの施策を考える上で、私たちが穴水町で暮らすことで得られているもの、気づいていない豊かさを再認識し、情報を欲している人に届けることが大事であると改めて実感しました。

話は変わりますが、最近の物価高騰対策として、「穴水町福来たれ商品券」と銘打って全町民に一人一万円分、高校生以下には一万円分を追加配布する事業を12月20日頃から実施しますので、ぜひご活用ください。

町長コラム

Mayor Column Vol.9

筆 おもむくままに

穴水町長 吉村 光輝

